

## ◆ SOA の概要 ◆

### ◆SOA を用いない場合

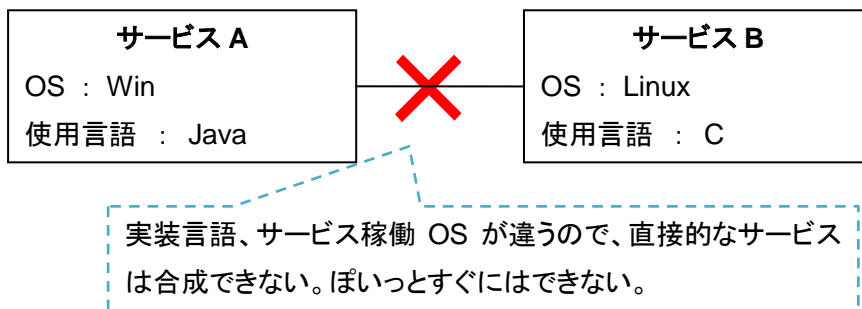
#### 【業務システムからの要求】

「業務システム A(在庫照会)と業務システム B(在庫管理)を合成させたい。」

これにより、業務をより効率化させるのが狙い。

↓↓↓

But, システム A とシステム B は合成できない！なぜか？



これを実現するには、サービス間に仲介役が必要。(ファンクションおく必要がある。)

効率化が妨げられる。

例:WSDL など

**ビジネス VS IT** の問題が存在。

### ■システム

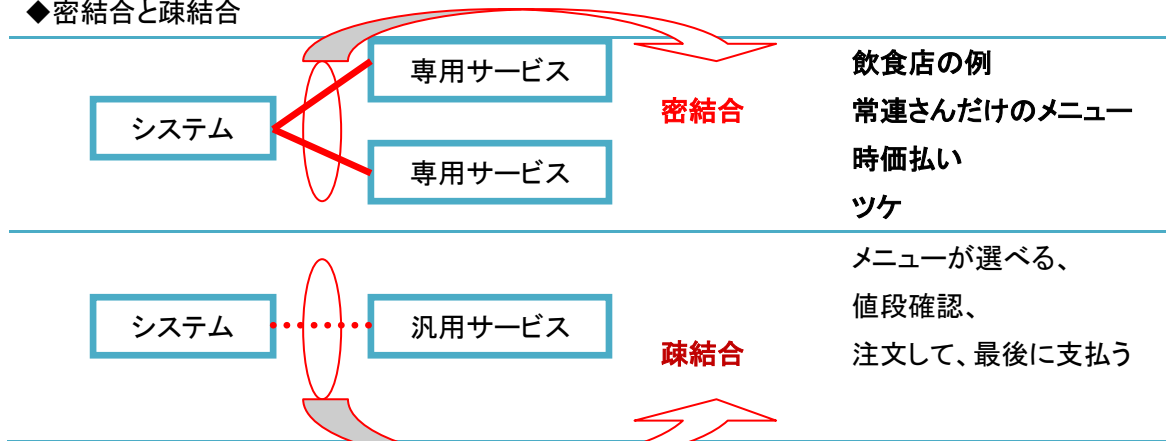
本来はビジネスを支援するもの

But, OS、実装言語、ネットワークの違いでビジネスの発展、変化が妨げられる

→ ナンセンス！

⇒これを解決するためのキーワード『疎結合』

◆密結合と疎結合



取引の手順を外部に公開することで、疎結合なサービスを提供できる

⇒ **インターフェース**

このインターフェースを用いることで、それぞれのサービスに対して、システムは密な関係ではなくなるが、1対1の密な取引から、不特定多数に対する疎な取引ができるようになる。  
密だったときの制約の数に対し、疎になったときは幅が広がる。

【SOAの目標】

ビジネス視点でシステムを考えること

【SOAの課題】

・ビジネス視点でシステムを考えられる人材が必要

・IT+ ビジネスに通じる人材が必要

⇒ 実践すると、あらゆる部門の利害が衝突する ←ステークホルダ？

↓↓

調停が必要

↓↓

経営陣にITに対する理解とリーダーシップが必要